

今週の
みことば

「わたしの恵みは、あなたに十分である」

(列王記第二 5 章 1 節～1 9 節 (旧約638頁))

「そこで、ナアマンは下って行き、神の人が言ったとおりに、ヨルダン川に七回身を浸した。すると彼のからだは元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった。」(5:14)。

(コリント人への手紙第二 1 2 章 1 節～1 0 節)

「しかし主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである』と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」(12:9)

今日のメッセージ要旨

◎私たちは「自分の弱さを晒すことを嫌う」のです。何故か？ 人間には弱さを認めることは敗北者との考え方があるからではないでしょうか？

◎列王記第二 5 章は異邦人への恵みが記されています。「アラムの王の軍の長ナアマンは、…ツァラアトに冒されていた」(1)。「ツァラアト」は皮膚病の一種で、人目をはばかる病、痛痒の辛さ、先行きの不安…。妻に仕えていたイスラエルから来た捕虜の若い娘が、エリシャの存在を思い切って知らせたのです(2, 3)。

ツァラアトは「直す」(3, 6, 7)、「きよくなる」(10, 12, 13)に使い分けられています。ツァラアトはイスラエルでは宗教的意味合いで使われ「きよさ、汚れ」の問題とされています(レビ13章)、しかし異邦人にとっては普通の病気なのです。神様は異教の世界にあっても働いておられるのです(ルカ4:27)。エリシャの申し出はナアマンという異邦人をイスラエルの神様のもとに導くため、ナアマンはツァラアトのきよめを求め、主のみ業に与ることを願い、ヨルダン川に7度身を浸してきよめられたのです。

◎コリント人への手紙第二を通して、パウロは批判者たちに対して、自分も誇ると言っている。どれほど主のために苦勞してきたか等です(11:16-33)。

パウロは使徒として神様に用いられましたが、「…わたしは自分の弱さを誇ります」と告白しております(11:30)。その上で、12章に入ってパウロが自身を三人称に置き換え、受けた啓示のすばらしさを語り、こういう人を誇りとする、と告白しております(1-4)。パウロは他の人が経験することの出来ない程の幻を見る経験をしました。しかし、パウロは「私について見ることに、私から聞くこと以上に、人が私を過大に評価するといけないから」「私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげ」を与えられたのです。それについて神様に「三度」取りのけて下さるようにと祈り求めたのです。しかし、神様の答えは「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」でした。パウロに与えられた肉体の棘が何であったのかははっきりわかりません。しかし、「私が最初あなたがたに福音を伝えたのは、私の肉体が弱かったためでした」と語り「私の肉体にはあなたがたにとって試練となるものがあつた」のに、「もしできれば自分の目をえぐり出して私に与えたい」との信徒の思いに感謝しているのです(ガラテヤ4:13-15)。

◎主イエス様も「確かに、弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力のゆえに生きておられます」。私たちもキリストにあって弱い者ですが、「あなたがたに対する神の力のゆえに、キリストとともに生きているのです」(2コリント13:4)。

弱さの中に現される神様の恵みをパウロも体験し、また告白しているのです(ピリピ4:13)。神様の恵みに感謝しましょう！